



JAICOH NEWS LETTER

第 42 号 2004 年 1 月 4 日 発行

歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局: 〒344-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel&Fax: 048-957-2286

発行: 深井 穂博 編集: 沼口 麗子 現会員数: 245 名

南太平洋における歯科医療奉仕活動

NPO 法人 ジャパンデンタルミッション
理事長 澤田 宗久

1982年当時、南太平洋協会の理事であった私は、同じく同会のメンバーであった笹岡氏からヴァヌアツの話を知りました。ヨットでたまたま立ち寄ったヴァヌアツ共和国という独立して間もない国。その国民の健康状態はかんばしくなく、目や歯の悪い人が多く困っている現状であることを聞き、笹岡氏からの「一度行って診てあげたら？」の言葉に腰をあげました。これが当会の出発です。

初めてのヴァヌアツ共和国訪問は、1983年。当時私は歯科医として一人での訪問であり、常態の悪い歯を抜くことから出発しました。その後も数年間、私は一人で治療を続けましたが、何とか機能回復が出来ないか？と考える様になり、歯科技工士に同行してもらおう事になりました。電圧や水などに苦労しながら何とか前歯部の義歯を1個製作、患者は大変喜んでくれました。翌年から、そのことが口コミで広がり、義歯が普及して行くこととなります。抜歯から義歯製作、ブラッシング指導へと範囲も広がり、又参加者も歯科医師に加えて歯科技工士、歯科衛生士やボランティアも参加する様になり、1995年「南太平洋に歯科医療を育てる会」を NGO と



バヌアツ共和国:マクワラ島の子供達

して設立する事になりました。又1996年にはフィリピン共和国カオハガン島在住の崎山克彦氏からの依頼を受け、同島での活動も始めました。

1996年以降は、ヴァヌアツ共和国年2回、フィリピン共和国年3回の活動を継続しています。2003年1月に特定非営利活動法人ジャパンデンタルミッションに新しく生まれ変わり、志を新たに出発し現在に至っています。



フィリピン共和国:カオハガン島での治療

医療活動として、抜歯に始まった当会も、現在はカリエス処置や義歯製作からブラッシング指導まで、活動内容は多岐にわたり、複雑化しています。又、ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国それぞれで状況が違い、両国に応じた活動内容を展開していく必要があります。そうした中であって、ヴァヌアツ共和国については、現在政府厚生省と今後の活動について検討を行い、活動拠点を今までのマレクラ島に加えてタンナ島でも活動を行う事になりました。

今後は、子供達の口腔管理に重点をおいて活動を続けていきます。マレクラ島については、すでに7つの小学校でカリ

エスチェックと同時に日々の食事内容の調査を実施し、カリエスと食事内容(特に砂糖の摂取)の関係を調べる活動を続けています。現地では、文明の潜入と同時に当然チョコレートやガムなどに甘い物も入り込み、口腔内の状況は、年々深刻なものになってきています。それに加えてブラッシングの習慣がまだ定着しておらず、我々としては、このポイントに焦点をおいて活動を続けていきたいと考えています。同じ活動をタンナ島でも行っています。又、上記のような活動を現地でより継続的に行うため移動診療車をヴァヌアツ共和国政府2台寄付できた事は、当会にとって大きな喜びであります。

フィリピン共和国カオハガン島では、ヴァヌアツ共和国とは異なり、大人から子供まで住民の数がしっかりと把握できており、今後も人口の変化はほとんどないと思われます。それ故、全島民を対象に、口腔内管理を治療と平行して行っています。この島においても甘い物の摂取が増加しており、それに比べてブラッシングの習慣がまだまだという状態で、その悲惨さは、ヴァヌアツ共和国以上と思われます。しかしフィリピン共和国では、ここ数年の啓蒙活動の成果が確実に感じとれてきております。小学校の教室にペットボトルの中に入れた歯ブラシを見つけた時には、我々は少なからず感動を覚えました。小学校の先生の指導で昼食後は必ずブラッシングを励行しています。

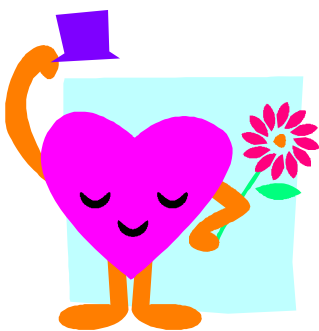
いずれにしても我々は、両国に於いて、甘い物摂取とカリエスの関係を理解してもらおうと共に、ブラッシングの大切さを啓蒙していかねばなりません。と同時に、あと数年は食物摂取内容の調査及び口腔内審査を継続し、両者の関係を明確にすると共に、WHOの基準に沿ったDMFT指数も明らかにして、両国による活動報告としてのレポートを出します。

又、文化交流として子供達の絵画の交換等を行っています。現地の子供達が心身ともに豊かに育ってくれるように願い、絵の具、画用紙から、バスケット、サッカーボール、なわとび等の運動具を多方面の方から寄贈して頂き、日本から現地まで運び、各学校などに配っています。ヴァヌアツ共和国やフィリピン共和国と日本をつなぐ架け橋的な役割を少しでも果たしていきたいと考えています。われわれの活動が教育に少しでも貢献できれば幸いです。

又、当会の特色として歯科医療奉仕、文化交流活動以外にボランティア活動を通じて参加者スタッフ全員の育成も考えています。人は、それぞれ悩み苦しみをもって生きています。ボランティアを通じての共同生活により参加者同士が話し合い、助け合うことで自分自身が救われるのではないのでしょうか。

ボランティアとは、一言で言うと人類愛であり、愛とは行動であります。

澤田宗久さん／NPO 法人ジャパンデンタルミッション理事長。大阪中央区にて澤田歯科開業。1983年からバヌアツで医療奉仕活動を開始。1995年「南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立。1996年にはフィリピンでの活動も開始。2003年 NPO 法人「ジャパンデンタルミッション」を設立し、両国での医療奉仕活動を続けている。



新規会員紹介

村井真介(むらいしんすけ)さん／東北大学国際保健分野

北海道大学歯学部卒。学生の頃から度々訪れていた東南アジアと南アジアの歯科医療に興味を持ち、施設を訪問し始める。スリランカのペラデニア大学、口腔癌予防プロジェクト、バングラデシュの歯科大学(複数)と BIRDEM hospital、カンボジアの Angkor Hospital for Children などがある。

僕は現在、東北大学国際保健学分野で学んでいます。国際保健学はもちろんのこと、特に産業界で発展してきた Quality Improvement の考え方をもとに、医療の質改善について学んでいます。改善とはあるべき姿と現状のギャップを埋めることであると学びました。こうあるべきことと、実際にそれができているかどうかは違う、このことを素直に認めることから改善は始まります。あるべき姿(ゴール)は何なのか。今のシステムとのギャップはどこにありどう改善すればよいのか、それらをデータに基づき論理的に分析する手法と改善の考え方(文化)を教室の活動を通して学んでいます。これらを国際保健はもとより国内保健にも活用していければと考えています。最近、歯科医師として臨床の場で働く機会を与えて

いただいています。歯科治療は当然のことながら、歯科医療がどのような人たちから成り立っているのかを知るよい機会となっています。産業界の言葉に固有技術というのがあります。当然、僕の固有技術は歯科医療です。大学院入学時の僕には、歯科医療の“知識”しかありませんでした。当然説得力に欠けました。国際保健を志す学生さん達に僕からのアドバイスは、もちろん積極的に海外に出ること、英語、それと同時に固有技術(まずは知識)をしっかり磨くことです。そういう僕もまだまだ修行中の身で偉そうなことは言えないのですが、国際保健へ卒後ストレートに進んだ僕が苦勞しているのが固有技術なので、あえて書いてみました。仙台へお越しの際は是非ご一報ください。おいしい牛タン屋へご案内します。

金寿子(きんひさこ)さん 平成 10 年から出張専門の助産院を開業。助産師として地域で活躍。

会員の皆様はじめまして。このたび入会させていただいた、金寿子と申します。よろしくお願ひいたします。何度かJAICOHの研修会等に参加させていただき皆様のご活躍を拝聴しました。私は、モンゴル歯科探検隊の一員として冬に2回、夏に5回歯科保健予防活動に参加させていただきました。モンゴルとの国際歯科医療交流は1991年から始まり、その活動は2003年の夏で13回目となりました。2000年からはモンゴル21県から医師を招き研修やセミナーを開催する予防プロジェクトも開始されました。現在、1994年に日本から資金や機材の提供し設立した民間の診療所「エネレル」を中心に様々な活動を展開しています。エネレルスタッフの知識や技術の進歩はめざましく、いまでは支援というより日本人スタッフと協同で共にモンゴルの歯科保健向上にむけて活動を行っているという感じです。また活動意外にもエネレルスタッフとの交流も深まっています。モンゴルの人たちは、優しく思いやりの深い人たちばかりです。これからも様々な形でこの活動に参加していけたらと思っています。



最前列左が金さん

研修医たより

木村時子(きむらときこ)さん

栃木県在住。日大歯学部卒業後、現在研修生として独協医大病院口腔外科勤務。

私はこの春歯学部を卒業し、現在大学病院で研修中である。外来と病棟を走り回る今の生活は毎日が勉強で、反省の連続で、忙しい毎日だが、学生の頃はよく長期で一人旅をした。往復チケットだけとり、行き当たりばったりな旅である。

深夜飛行場に到着してからホテルまでの足探しに苦労したり、値切ったつもりがボラれていたり、飛行場からホテルまでの直線上には必ず旅行代理店があったりと、入国直後から不安は尽きない。ちょっと高級なホテルに泊まっても翌朝部屋に旅行代理店が訪ねにくる。だが一歩飛行場から、三つ星ホテルから足を踏み出すと、危険は伴うものの自分だけの旅行が待っている。バスターミナルや駅へ行き、時刻表を調べ、気の向くままに切符を買う。

バスや電車での旅は相席者と仲良くなるには絶好の場所だし夜行なら昼間十分観光できる。スリや強盗、騙そうとする人は多いが、旅の仲間は安宿にあふれ、現地の人にも優しい人は多い。一人旅の何が魅力か一言で表現することはできないが、不安や緊張と裏腹に感じる開放感がたまらない。

ボリビアへ行ったとき、公園で出会った家族にお世話になった。言葉もわからず片言の挨拶と自己紹介しかできなかったが、すぐに「アミーゴ」となった。一緒に観光し、家に招待され、その歓待に驚く以上に嬉しかった。インドでは夜行列車で出会った人に食事や下車駅、言葉など多くのことを教えてもらい、ツアーにはないふれあいがあった。



ボリビアで出会った家族と一緒に
前列右が木村さん

そんな中、国際保健に興味を持った。最初は旅行の延長線であった考えが参加してゆくうちに変わった。現地の状況を把握し、そこに住む人に本当に必要なこと、問題を長期に渡り共に考えてゆく。国際保健は必ずしも先進国から発展途上国に技術、物資を授けられるものではなく、交流し、お互いを知り、お互いを通して自らを知ることができるのではないかと思う。

研修を終え、どういった方向に進むかは未定であるが、学生の時に培ってきたものを大切にしていきたいと思っている。

留学生の声

♪今回はタイからの留学生トンチャイ先生にインタビューしました！



トンチャイ・ワチラロパイサンさん: 歯科医師。タイ王国・バンコク出身。日本での所属・東京医科歯科大大学院健康推進歯学分野。

タイ王国

◎気候: 熱帯モンスーン気候に属し、年平均気温は28、8℃

◎面積: 51、4万平方キロ(日本の約1、4倍)

◎人口: 6、231万人

◎民族: タイ国民の大多数がタイ族。タイ族以外で最も多い華僑(華人、華裔、泰華とも呼ぶ)のタイ化の度合いも進んでおり、深刻な民族問題は生じていない。なお、マレー系民族は南部の4県に住み、ほとんどがイスラム教徒である。

◎宗教: 憲法は信仰の自由を規定しているが、タイ国民のほとんどが仏教徒であり、仏教は国教の観がある。タイの仏教は、スリランカ系の上座部仏教(小乗仏教)であり、それは自らの修行努力によってのみ自己の救済が完成されるという出家者、僧院中心の宗教である。なお、タイ全国の仏教寺院数は約3万、僧侶は約29万人。

日本食ではお蕎麦が大好きというトンチャイ先生。昼食にお蕎麦を頂きながらお話を伺いました。

Q: タイからいらしてるそうですが、タイの歯科大学、歯科事情について教えてください。

A: タイには国立のデンタルスクールが8校あり、6年生です。歯科学生は約400名います。歯科医師は全国で8000名位です。これは人口比にすると1:9000位。バンコクでは1:1000位です。

Q: 現在東京医科歯科大大学院に在籍されていますが、タイではどちらに所属していますか？

A: 3年前に来日し、今、医科歯科大大学院博士課程3年に在籍中です。タイではバンコクのチュラロンコン大学を卒業後、国立病院勤務、小児歯科を勉強し、マヒドン大学の公衆衛生で修士課程を終了しました。現在チュラロンコン大学のコミュニティーデンティストリーのレクチャーです。

Q: なぜ日本に留学したのですか？

A: たくさん理由がありますが、チュラロンコン大学と医科歯科大が姉妹校であることと、日本の歯科医療レベルが高いことです。日本の文部省から奨学金を頂いています。

Q: 帰国後はどうしますか？

A: 院を卒業したら帰国します。チュラロンコン大学のレクチャーに戻ります。現在タイでは、子供に多発している虫歯と大勢の大人が罹患している歯周病が大問題です。それらの予防プログラムを作成するために日本で勉強しているので、帰国したらそのための教育と研究を続けます。

Q: ご家族について教えてください。

A: バンコクに妻と長男、長女が住んでいて、日本には自分と次男がいます。子供に日本での生活を体験させたかったのと、子供の希望もあり2003年4月から日本の小学校に通わせています。タイでは小学校からたくさん勉強しなければならないのですが、日本

では勉強以外のサッカー等に夢中になれ、友達もたくさんでき息子はとても楽しい生活をおくっています。

Q: 毎日お子さんに食事を作っているそうですが、得意料理を教えてください。またお薦めのタイレストランは？

A: 例えば料理は、TOM YAM KUNG(Thai spicy shrimp soup)、THAI FRIED RICE、KANG-SOM(Thai spicy fish and vegetable soup)等を作ります。レストランはKAEW JAI、MALAKOO(新宿)、THAI CLASSIC(医科歯科大の近く)が美味しいです。

インタビューアークからひとこと

とても日本語が上手です。話すだけでなくひらがな、漢字も書くので驚きました。(来日前半年しか勉強してないそう!)日本の口腔衛生学会に所属し日本語で学会発表をしてるそうです。温厚でとても知的な感じ。休日はスポーツセンターでテニスをしたり上野界隈をジョギングしたり息子と一緒に遊んだりして過ごしているそうです。息子さんの世話をしながら(授業参観にも行き、学校行事にも参加している)院での勉強をしていてとても偉い先生だと思いました。



「国際歯科保健医療学」刊行！！

ネパール歯科医療協力会15年の現場体験における、国際協力の解説書です。国際協力に関心のある方にお薦めします！！

A4判 239頁 定価（¥6400+税）医歯薬出版株式会社

第19回 日本国際保健医療学会東日本地方会のお知らせ

- ◆テーマ：国際母子保健 —特に少数派の母子において—
- ◆日時：2004年2月28日（土曜）
午前10時—午後5時
- ◆場所：東京大学医学部 図書館 3階 333号室および310号室
- ◆特別講演：黒岩宙司（東京大学国際保健学専攻）「国際協力事業の評価：援助協調の流れの中で」
- ◆招聘講演：李 燕（雲南省婦幼保健院）「中国雲南省の少数民族の母子保健の改善事業」◆ワークショップ「多民族文化社会（在日外国人）における母子の健康」
- ◆参加費：1000円（抄録代として）
- ◆問い合わせ：第19回東日本地方会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻発達医科学教室
牛島廣治、柳生文宏 Tel：03-5841-3590 Fax：03-5841-3629

第15回 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会および学術大会のお知らせ

- ◆日時：2004年7月4日（日）
- ◆会場：昭和大学歯科病院臨床講堂
- ◆内容：シンポジウム、口演発表、JAICOH2004年度総会

【編集後記】

明けましておめでとうございます。JAICOHのニューズレターは今月号から歯科ペンクラブに掲載ではなく、単独の発行となりました。これからも会員の方々そして会員以外の方々からもご意見ご批評をいただき、ますます魅力ある紙面にしたいと思います。現在、国際歯科保健医療協力の現場では多くの団体や個人が実績をあげ、またこれから活動を望む人々もたくさんいると思われまふ。その方々が紙面上で情報交換ができ交流できればと願っています。今月号から我が国で学んでいる留学生のインタビューを始めました。異文化をもっと理解したいと思ひ、また共に学ぶ仲間のことを知りたいと思ったからです。どうぞ隔から隔までゆっくりお読みになって下さい。会員の皆様、今まで同様これからも紙面作りにご協力をお願いいたします。また歯科ペンクラブの羽中田さん、斉藤さんにはとても感謝しています。今まで無理難題をお願いした時も見事な編集をしていただきました。有難うございました。どうか今後ともアドバイスをよろしくお願ひいたします。

ニューズレター担当（檜崎、梁瀬、沼口）